

まほろば 自然農園だより

2017-12月号

宮下洋子&周平

まだ青々した枝葉を切るのは辛い

ジェムコーンに想う

台風になぎ倒されて、見るも無残に道路の横に立つその姿は、ある意味みっともない風景であった。それ以前も、余りにも大小さまざまな形は、近所のプロには正直見せたくないほどの成りであった。10月を過ぎてても、中々実が充実しない。畑でない芝地に植えたことを後悔した。だが、雪も降り始める前には、さすがに刈るしかなかった。その後、風乾し、漸く雪が積もって、家で皮を剥き、実を取り出している。

それを見て、実が入っていない何とも可哀な風な唐黍も、一粒一粒が一本一本のひげを伸ばして先で纏まっているその様に感動するのだ。もう、一つ一つの健気さは言葉にならない。そして、その色目のバリエーションとグラデーションの美しさ。たった一粒から様々な色合いの変化が生まれる造化の不思議さを感じる。

生では、出荷出来なかったが、どうぞクリスマス・正月用のリースなどの

お飾りにお使いください。また、粉にしてパンや、パンケーキ類などに使う事も出来ますヨ。

最後の援農

あと、「へうげ味噌」「新醬」に使われる「白・紫花豆」「虎豆」「うずら豆」「三色隠元」「モロッコ」「ツタンカーメン」「銀手亡」「華巖の滝」「十六さざげ」が残っている。50mのアーチ6本分。



グラデーションが複雑で美しい！ 一粒一本のひげが伸びている！

本店スタッフ、安田千賀さんと島影由佳利さん二人で、懸命に頑張ってくれた。一日でほとんど、片付けてくれて、漸く先の見込みが付けられた。初めての農園作業という割には、毎日野菜の処理をしているから手際がよく、要領がすぐ飲み込める。随分はかどった。ありがとうございます。今年の研修はこれで終了。みんなよく遠路を来てくれました。若々しい安田さんと島影さん大いに助かりました。そして、勉強になったかな。



若々しい安田さんと島影さん

マッカム定植

山の手の斎藤さんが、手塩にかけて作っている「マッカム」。私は、このマッカムが、大好きで、子供も好き、店のみんなも好き、お客さまもみな大好きな方々が多い。

ところが、昨年も、今年も、入荷無し。それで、斎藤さんに頼み込んで、数年前から苗木を作ってもらっていた。ところが、エゾシカに食べられて、1本しか残らなかった。

それが11月の雪が降る直前に届き、早速台所から見える所に、定植。これを「目育て」という。いやいや、私の造語ですよ。毎日毎日、見てやって、育てる。「がんばってるね！」と心で、言葉掛けして、育てるのです。将来、マッカム農園にしたいぐらい。今年9月、穂接ぎしたマッカム、雪でダメかも知れませんが、残念。また、春に挑戦します。みなさん、5年先くらいをお楽しみに。

畑の後始末あれこれ

農園の後片付けは大変である。池田さんは黙々と着実に、次々と仕事をこなして行ってくれている。有りがたい。無言実行の人。

この広い畑は、初めも大変だけど、後も大変、そして中も大変。結局、全部大変ということになる。農家の方は、本当に大変な仕事をされていた、と今更ながら思う。

先月出した「農婦問答」の反響が凄くてビックリ！増刷で、お客様に配りたいという自然食品店の方が居たほどにインパクトが凄かった。今月もその第2弾が出る。今回も衝撃的。寺島さんとは、このたびの事で、一層交流が深まった。100mほどの大型ハウスの骨組みも解体して、運んで下さり、お世話になりっぱなしである。只々有りがたいばかりで、お礼のしようもない。



みかたがたひし 観方、我他彼此

畑から10mほど離れた所に、電車が通っているが、いつも、畑からしか見えない。また一度も鉄道を利用したことが無かった。11月11日、東京で開かれる「しあわせの経済」世界フォーラムの



斎藤りんご園のマッカムの大木



為に上京した。夕方、薄暗い中、無人駅「然別駅」から乗車、初めて電車から、我が畑を垣間見た。ああ、こう見えるのか。一種の感動でもあった。

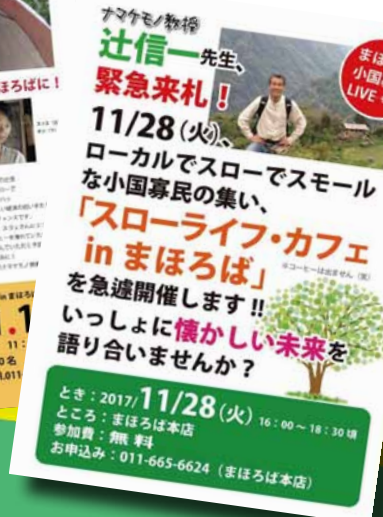
その時、果たして作物から、私を見ているだろうか、とフト思った。何時も一方通行で、客観視出来ていない自分が居る。未だ、双方の立場で物事を見られる大人に成り切れていない。



電車の車窓から、まほろば農園を眺める

東京、「しあわせの経済」

忙しくて行き渋ったが、今の仁木での生き方とまほろばの方向性を確認するためには、ぜひ参加せねばとの思いで、無理くり東京に飛びました。結果とても良かったと思っています。そのお陰で、まほろばで、タイのカレン族との交流会や、辻さんの緊急集会在が設けられたのも、この機会があったてこそのもでした。詳しくは今月のおたより「しあわせの経済」特集号をお読みください。



トマトハウス解体 命の永らえー



まだまだボロボロ鈴なりのミニ

「これでいいのかなー?!」「かわいそうになー」「まだ青々として天井には葉が茂っているいる」「まだまだ実が一杯付いている」「脇芽が出ているよ」「茎を切ると白い導管が瑞々しく光っている」.....

まだまだ生かして伸ばして上げたいな。このままおくところまで生きるのか。全然枯れる気配がないし、

活かしておきたいなー。

しかし、ハウスのビニールをそのままにしておけば、積雪の重さで、躯体まで潰されてしまう。周りのミニトマト農家は、既にみなテントを外している。ここだけが残るだけだ。でも、本当に、今年のトマトは頑張ってくれました。当初、窒素分は全く投じないでいたにも関わらず、去年の残肥のせい（前年のきゅうり跡）、窒素過多の様相で、制御不能なくらい始末に負えなかった。幾度も春の暴風雨の水に浸かり、今年は失敗かほとんど落胆気味だった。男どもは、半ば頭を抱えて切ってしまうかと思った所、家内が諦めないで懇ろに世話をして行った。0-1テストでチェックしながら、風通しや水はけ、肥料バランスや温度管理、整枝、醤油



茎がこんなに瑞々しい



天井につかえても成っている。この時期に、脇芽

粕や古い敷き藁などを施して構ってやったら、こんなに11月の半ばでもまだまだ伸びて25段くらいまでも生長してくれた。どんなものにも諦め^{あきら}ないで面倒見ることの大切さを教わった。人も物事もそうであろう。みんな生きてがっているのだ。

スーパーハウスに、冬仕事

入るは入るは、スーパーハウスに、豆類のコンテナが山のように積まれています。これで、冬仕事は、確保。有ります、在ります。毎日豆を叩い



て取り出して、来春仕込みの「へうげ味噌」に間に合わせます。



白菜、車一杯

畑に一杯取り残した白菜。結構太った白菜。車一杯に100個くらい積んで、さてと。しかし、車ごと



畑に埋まってしまいました。どうにもこうにもならない。レッカー車を呼んで、やっと救出できて、ほんとに大騒ぎでした。今少しづつ出荷中です。

雪一色

とうとう雪景色の毎日。時に雨が降り、路面が現れると、それ行け！とばかり、大根抜き、白菜取りにと、その日を待っています。でも、段々そんな日もなくなって来ます。2日ほどの雨で、また路面が出て来ました。今とばかりに、いざ収穫に！感謝デーに少し出せそうです。

来年度の作付け計画の為、畑を計測し、来年の苗作りの為の土を取り……、まだまだ当分、冬籠りは出来ないようです。

♫の農園だよりは、年末に。